

マイコプラズマ肺炎にご注意！

急に涼しくなり、ぜんそく気味のお子さんも少しみられるようになりました。今年大流行しました手足口病がかなり減ってきました。

例年、晩秋から早春にかけて流行するマイコプラズマ肺炎が流行の気配を見せています。

従来は4年周期でオリンピックのある年に大流行を繰り返していましたが、1984年と1988年に大きな流行があつて、それ以降は大きな全国的な流行はありませんでした。ところが2011年に大流行しました。

どんな病気

細菌とウィルスの間のような性格を持ったマイコプラズマ菌が肺に感染しておこります。赤ちゃんにはあまり見られず、幼児から青年期を中心に5歳から10歳くらいの子どものかかりやすい病気です。

潜伏期間

感染して症状が現れるまでの潜伏期間は通常2～3週間です。

症状

2歳くらいまでの子どもは症状があまりひどくなく、いわゆる「かぜ」と区別がつかないことが多くあります。それ以降、小学生くらいまでが一番症状が悪く、最初は発熱（夕方に高くなることが多い）、けん怠、頭痛の症状が出て、引き続き強い乾いたセキが出ます。強いセキのために、胸が痛いという訴えをすることもあります。



合併症

ぜんそくのあるおさんは発作が出たり、悪化したりしますから注意が必要です。高熱のためにけいれんが誘発されることもあります（熱性けいれん）。発疹が出現することもありますし、中耳炎が合併することもあります。その他にもまれですが様々な合併症が起こる可能性があります。

予防法

ワクチン等の特別な予防方法はなく、流行期には手洗い、うがいなどの一般的な予防方法と、患者との濃厚な接触を避けることです。

登園基準

熱があつたり、強い咳がある場合は保育園を休ませてください。熱が下がっても咳はかなり長く続きますので、咳が落ち着いたら登園するようにしてください。